

平成30年度（2018年度） 区民意識意向調査 < 概要版 >

この小冊子は、平成30年9月に実施した「平成30年度（2018年度）区民意識意向調査」の概要版です。調査の結果については、今後の区政運営の基礎資料として活用いたします。ご協力いただいた区民の皆様に心から感謝申し上げます。

【調査の概要】

調査対象	練馬区在住の満20歳以上の男女3,000名を住民基本台帳より層化二段無作為抽出
調査方法	郵送法（郵送配布・郵送回収）
調査期間	平成30年9月1日（土）～9月21日（金）
回収状況	有効回収数 1,208 回収率 40.3%
調査テーマ	1 区の施策および評価について 2 都市農業・農地について 3 地域福祉について 4 区民のみどりを守り育てる活動について

数字の表示について

- (1) 図表中「n」とは、その質問への回答者総数のことです。
- (2) 回答は、回答者総数を100%として算出し、小数点第2位を四捨五入してあります。このため、回答率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の質問では、回答率の合計が100%を超える場合があります。

「平成30年度（2018年度）区民意識意向調査報告書」（全文）
については、区ホームページや図書館などをご覧ください。

平成31年1月

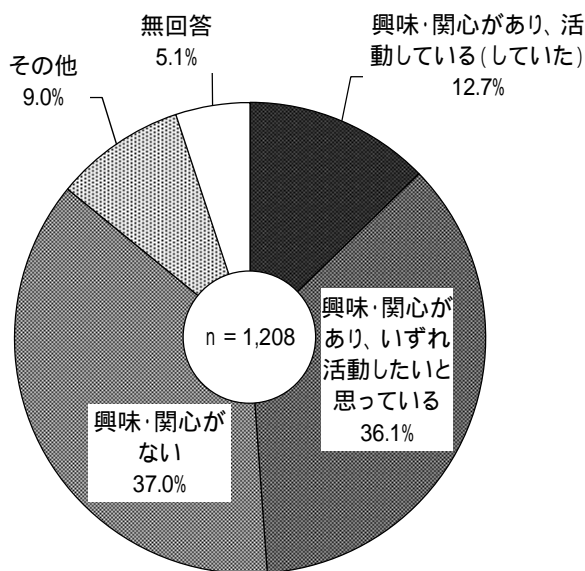
発行 練馬区 区長室 広聴広報課
〒176-8501 練馬区豊玉北6丁目12番1号
電話 03-5984-4501（ダイヤルイン）

3 地域福祉について

(1) 地域福祉活動への興味・関心

「興味・関心がない」は4割近く

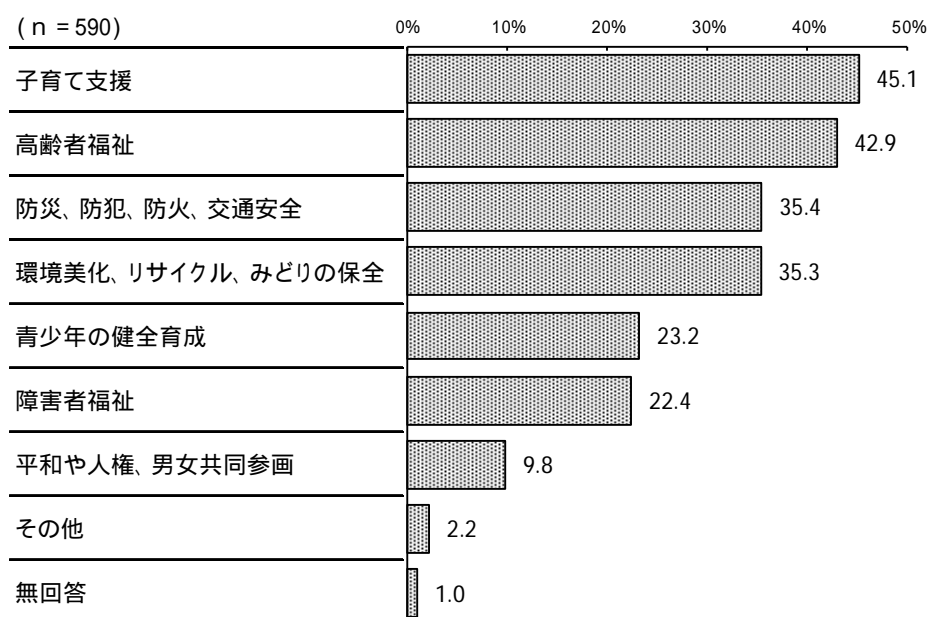
「興味・関心がない」(37.0%)が4割近くで最も多く、次いで「興味・関心があり、いずれ活動したいと思っている」(36.1%)が3割台半ばとなっている。また、「興味・関心があり、活動している(していた)」(12.7%)は1割を超えている。



(1-1) 興味・関心がある地域福祉活動

「子育て支援」は4割台半ば

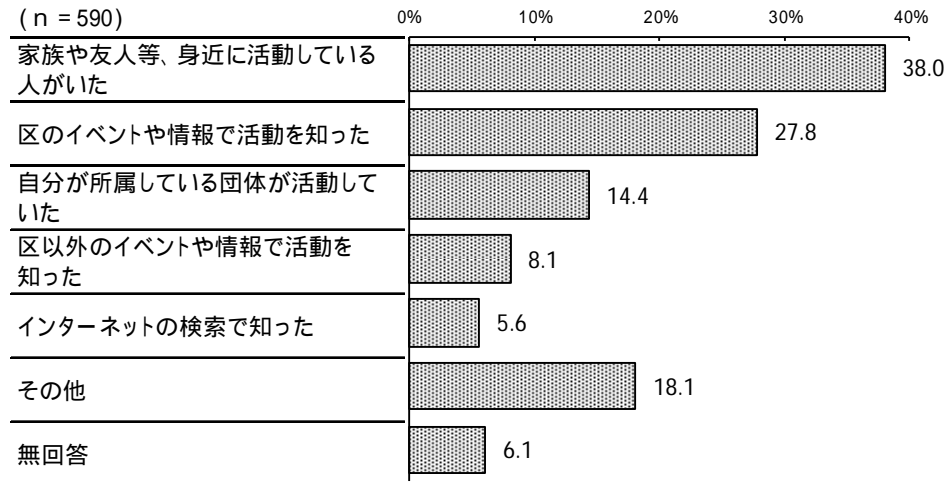
「子育て支援」(45.1%)が4割台半ばで最も多く、次いで「高齢者福祉」(42.9%)、「防災、防犯、防火、交通安全」(35.4%)、「環境美化、リサイクル、みどりの保全」(35.3%)などの順となっている。



(1 - 2) 地域福祉活動に興味・関心を持ったきっかけ

「家族や友人等、身近に活動している人がいた」は4割近く

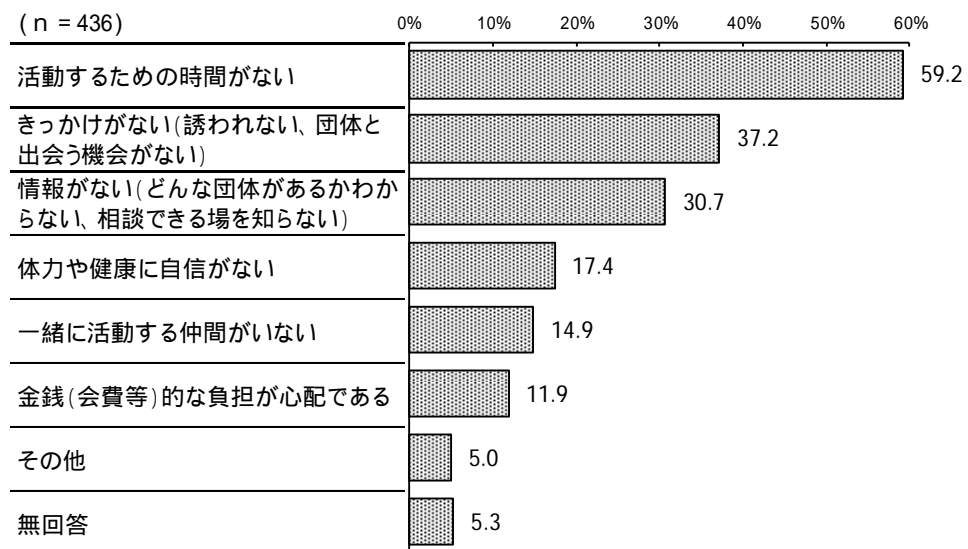
「家族や友人等、身近に活動している人がいた」(38.0%)が4割近くで最も多く、次いで「区のイベントや情報で活動を知った」(27.8%)、「自分が所属している団体が活動していた」(14.4%)の順となっている。



(1 - 3) 地域福祉活動をしていない理由

「活動するための時間がない」は約6割

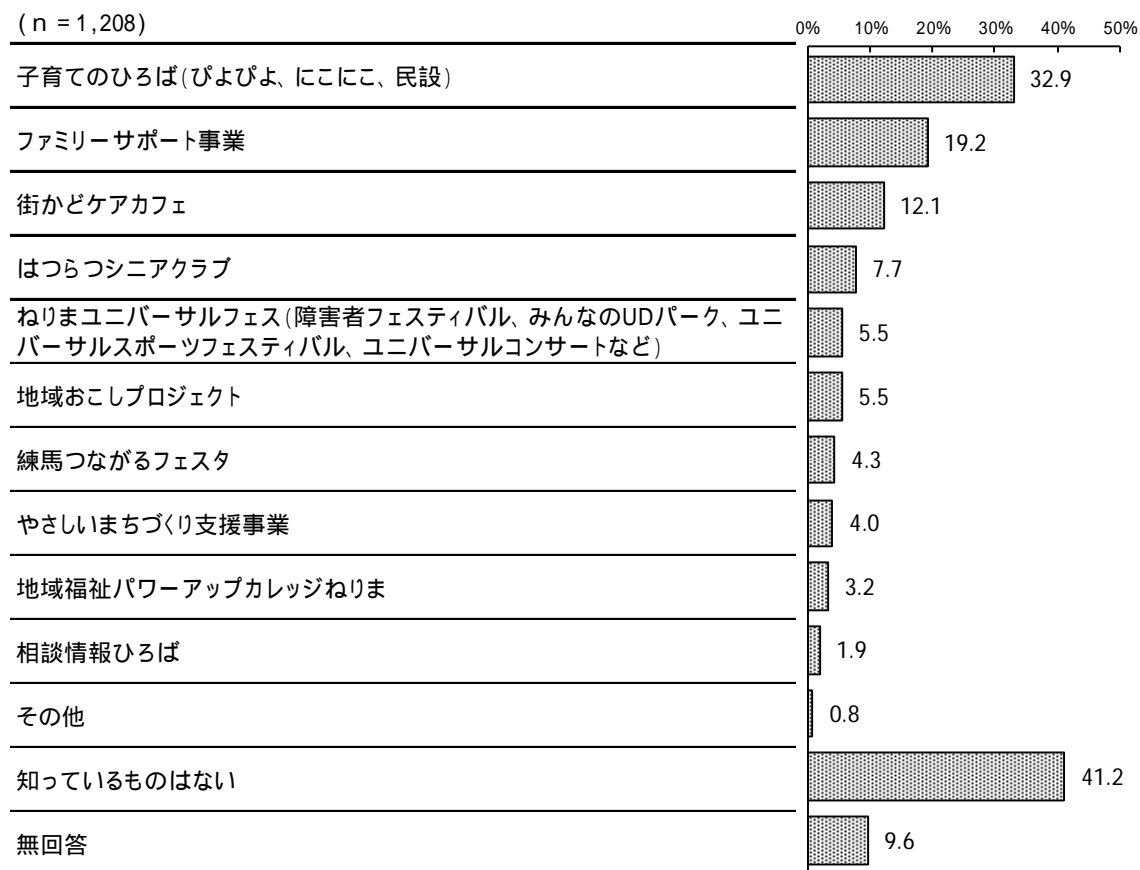
「活動するための時間がない」(59.2%)が約6割で最も多く、次いで「きっかけがない(誘われない、団体と出会う機会がない)」(37.2%)、「情報がない(どんな団体があるかわからない、相談できる場を知らない)」(30.7%)などの順となっている。



(2) 区民参加事業の認知状況

「子育てのひろば(びよびよ、にこにこ、民設)」は3割を超える

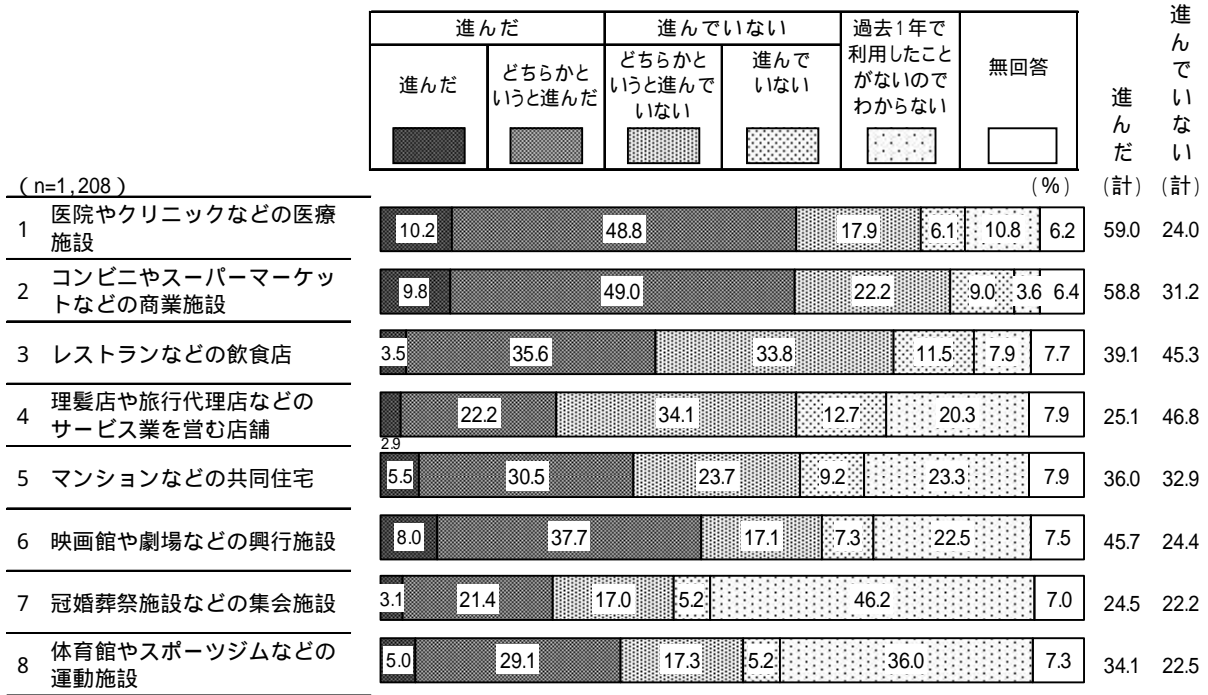
「子育てのひろば(びよびよ、にこにこ、民設)」(32.9%)が3割を超えて最も多く、次いで「ファミリーサポート事業」(19.2%)、「街かどケアカフェ」(12.1%)の順となっている。一方、「知っているものはない」(41.2%)は4割を超えている。



(3) 区内の中規模・小規模の建物のバリアフリー整備状況

「**医院やクリニックなどの医療施設**」は『**進んだ**』が約6割

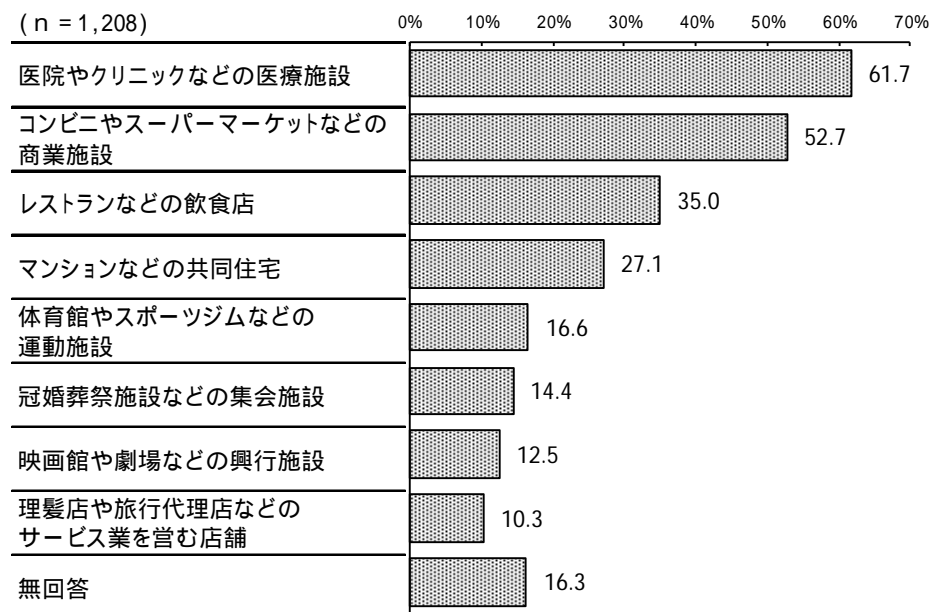
「進んだ」と「どちらかというに進んだ」を合わせた『進んだ』は、「医院やクリニックなどの医療施設」(59.0%)で約6割となっている。一方、「どちらかというに進んでいない」と「進んでいない」を合わせた『進んでいない』は、「理髪店や旅行代理店などのサービス業を営む店舗」(46.8%)、「レストランなどの飲食店」(45.3%)で4割台半ばとなっている。



(3-1) 重点的にバリアフリー化に取り組むべき建物

「**医院やクリニックなどの医療施設**」は6割を超える

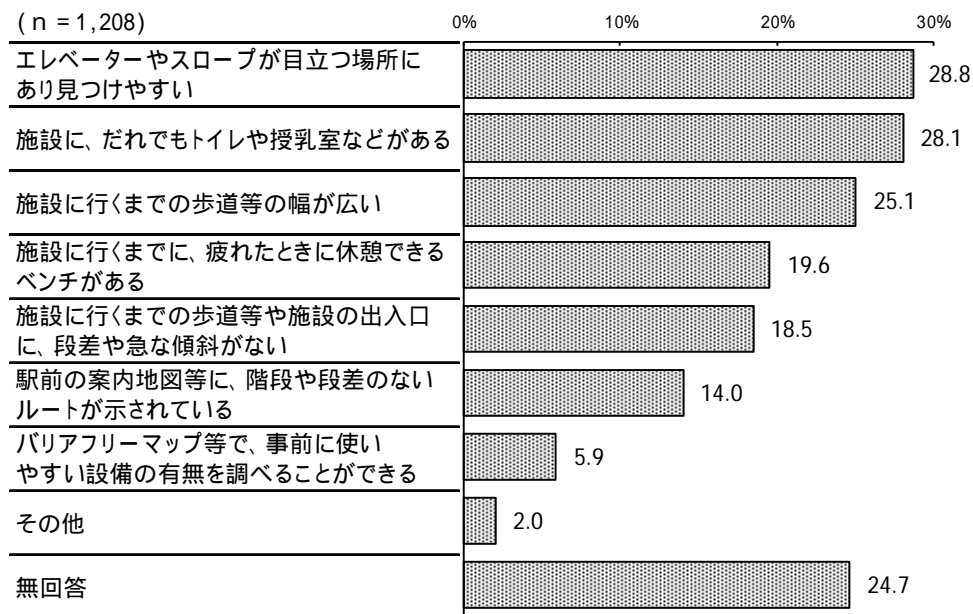
「医院やクリニックなどの医療施設」(61.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「コンビニやスーパーマーケットなどの商業施設」(52.7%)、「レストランなどの飲食店」(35.0%)の順となっている。



(4) 安心して外出するために必要な設備や案内

「エレベーターやスロープが目立つ場所にあり見つけやすい」は3割近く

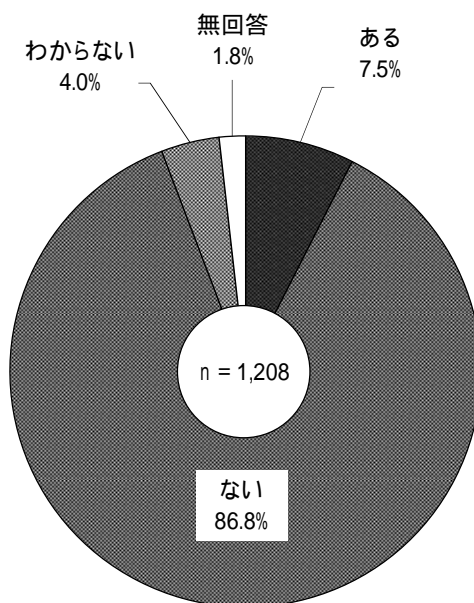
「エレベーターやスロープが目立つ場所にあり見つけやすい」(28.8%)が3割近くで最も多く、次いで「施設に、だれでもトイレや授乳室などがある」(28.1%)、「施設に行くまでの歩道等の幅が広い」(25.1%)の順となっている。



(5) 金銭の管理や契約手続きなどで支援を必要としたことの有無

「ない」は8割台半ば

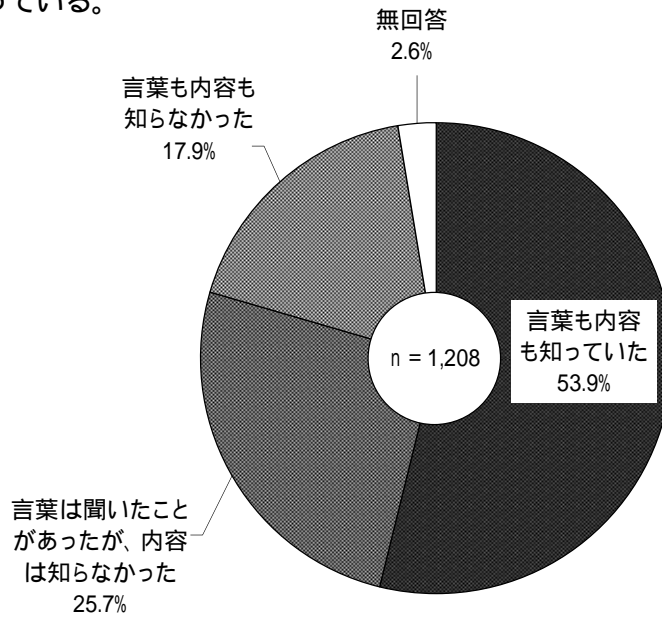
「ない」(86.8%)が8割台半ばを占めている。



(6) 成年後見制度の認知度

「言葉も内容も知っていた」は5割を超える

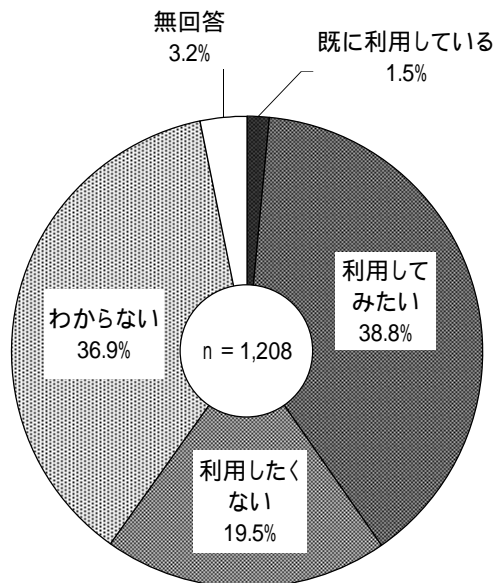
「言葉も内容も知っていた」(53.9%)が5割を超えて最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあったが、内容は知らなかった」(25.7%)となっている。一方、「言葉も内容も知らなかった」(17.9%)は2割近くとなっている。



(7) 成年後見制度の利用意向

「利用してみたい」は4割近く

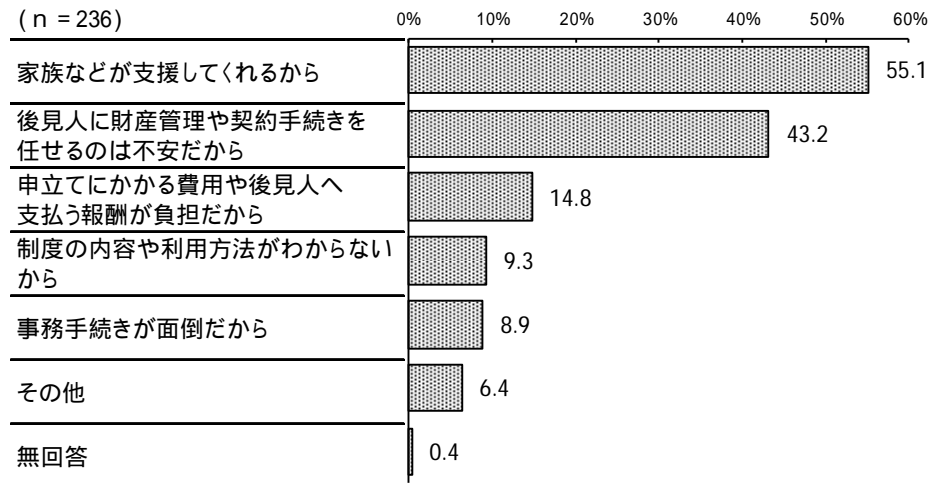
「利用してみたい」(38.8%)が4割近くで最も多く、次いで「わからない」(36.9%)となっている。一方、「利用したくない」(19.5%)は約2割となっている。



(7 - 1) 成年後見制度を利用したくない理由

「家族などが支援してくれるから」は5割台半ば

「家族などが支援してくれるから」(55.1%)が5割台半ばで最も多く、次いで「後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安だから」(43.2%)、「申立てにかかる費用や後見人へ支払う報酬が負担だから」(14.8%)の順となっている。



(8) 成年後見制度が必要になったときに相談できる機関の認知度

「弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家」は4割を超える

「弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家」(42.5%)が4割を超えて最も多く、次いで「地域包括支援センター」(20.0%)となっている。一方、「知っているものはない」(32.4%)は3割を超えている。

